

第6学年 国語科学習指導案

平成27年1月28日（水） 2校時

- 1 単元名 作品の世界を深く味わおう
教材名 「やまなし」 宮沢賢治

2 単元の目標

- ・物語の情景や言葉の使い方に興味をもち、作者の考えを想像しようとしている。
- ・読み取った情景や作者の思いを、叙述に即して想像を広げながら読むことができる。
- ・造語の楽しさ、効果的な比喩表現や擬声語・擬態語、色彩語など、語感や言葉の使い方を理解することができる。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○物語の情景や言葉の使い方に興味をもち、作者の考え方や生き方を知ろうとしている。	○場面の様子をとらえて、優れた叙述に気がついている。 ○二つの場面を比べて読むことで、作品の特徴や作者の思いをとらえている。 ○文章を比べて読んで、作者のものの見方や考え方について考えることができる。	○造語の楽しさ、比喩的な表現や擬声語・擬態語などの効果的な使い方を理解している。

4 単元について

(1) 単元設定の理由

「やまなし」は、「二枚の青い幻灯」として映し出された「五月」「十二月」の二場面から構成された小さな谷川の底に棲むかのにの目を通して語られる物語である。

「二枚の青い幻灯」は、「動と静」「かわせみとやまなし」「恐怖と喜び」など、場面の対比的な読みを通して、精一杯生きる生命の美しさを感じとることができるようになっている。物語は、比喩表現や擬声語・擬態語、色彩語など、宮沢賢治独特の表現が駆使されており、一つの言葉、連なった言葉がもつ叙述の響きやリズム、イメージを大切に、豊かに宮沢賢治の世界観を読み味わうことができる作品である。

本単元では、描かれている色鮮やかな情景や豊かな表現から作品を味わい、作品世界と作者の思いを想像し、自分の考えを深めてほしい。

(2) 教材文について

「やまなし」は「五月」と「十二月」の二場面で構成されている。

- 1 「五月」：明るい太陽の陽射しの中で生命が躍動する谷川が舞台になっている。その中で弱肉強食の争いによって引き起こされる死、死への恐怖が、現実の世界として描かれている。
- 2 「十二月」：月光が水中に透き通る静かな夜の谷川が舞台になっている。多くの生命が眠りにつく冷たい時期だが、その中でのかのにの親子の温かいやりとりや、突然落ちてきた（生を全うした）やまなしによってもたらされる幸せが平和で理想的な世界として描かれている。

この2つの場面が並置されていることで、様々な対比的な読みを感じながら読むことができる。また、比喩表現、擬声語・擬態語、色彩語、造語が文章のいたるところで巧みに使用されていて、情景が鮮やか

に描写され、かのに親子を取り囲む世界が生き生きと豊かに描かれていて、優れた表現を味わい、イメージを広げ豊かに読みを深めていける作品である。

さらに、テーマとして「死」がある。五月の「奪われる死」と十二月の「与える死」に気付かせ、宮沢賢治の作品への思いをつかませていきたい。

5 研究主題に迫るために（学習活動の工夫）

（1） 4つの思考の型を取り入れた言語活動

（2） 「物語文を読む10の観点」の活用

（3） ワークシートの活用「一人読み」

場面ごとにワークシートを作成し、登場人物の心情が読み取れる箇所などにサイドラインを引き、自分の考えを書き込ませる。

（4） 学習環境の工夫

学習の振り返りができるように、模造紙に書いて教室に掲示し、以前の学習内容を振り返ることができるようにする。

（5） 発問の工夫

児童が叙述から離れた想像を広げないように、視点をしばって発問する。

（6） 学習形態の工夫

・ ペア音読

二人組になり、読み手と聞き手に分かれる。教科書を交換し、読み手は音読を始める。聞き手は、読み手が間違えた箇所や読み直した箇所に線を引く。読み終えたら、読み間違えた箇所を確認し役割を交代する。二回目からは、聞き手は消しゴムを持ち、前回線を引いたところを間違えずに読めたら線を消す。また、新たに読み間違えがあった場合は新たに線を引く。こうすることで、読み手は自分がどこを読み間違えやすいのか確認でき、正確に読もうとする態度を育てる。

・ ペア対話

ワークシートに書き込む「一人読み」と「クラス全体での話し合い」の間に二人組になって自分の考えを伝える時間を作る。このペア対話を通して、全員が自分の考えを実際に「話す」という活動が保証される。言葉を選びながら、自分の考えを伝えることで自身の思考を深めることにもつながる。

【ペア対話の3つの条件】

- ・ 話したいことを短く区切って、相手と交互に話す。
- ・ 相づちをうつなど聞いていることを態度で示しながら、相手の話を聞く。
- ・ 相手の意見を自分の意見と比較しながら聞き、合図があるまで沈黙の時間を作らない。

6 学習指導計画（全8時間）

次	時	ねらい	主な学習活動と4つの思考	評価規準・方法
1	1	・全文を読んで初発の感想を交流する。	・物語が6つの場面から構成されていることをとらえ、心に残ったことを中心に感想を書く。	【関】物語を想像しながら、心に残ったことを感想に書いている。 (発表・ワークシート)
	2	・物語の大体をつかむ。	物語のあらすじをとらえよう ・10の観点に基づき、物語の構成を捉える。	【読】物語のあらすじをつかみ、ワークにまとめている。(ワークシート)
2	3	「五月」の物語構成を読み取る。	情景がわかる言葉に着目しながら「五月」の様子を想像して、図にかき表そう (第一課題) ・情景がわかる言葉に着目しながら「五月」の様子を想像して、図にかき表す。【選択】【類推】 完成した図を見て気づいたことをまとめよう (第二課題) ・完成した図からわかることを考え、発表する。【選択】【類推】 (言葉の力) 擬音語・擬態語、色彩語、比喩表現	【読】情景がわかる言葉に着目し、場面の様子を読み取ることができる。 (発表・ワークシート)
	4	「五月」の情景とかにの子どもらの様子をつながりを読み取る。	かわせみの出現の前後で、かにの兄弟の気持ちがどのように変わったのか読み取ろう (第一課題) ・かわせみが現れたことがわかる表現に線を引く。 ・かにの兄弟の会話や情景描写に線を引き、そこからわかることを発表する。【選択】【類推】 不気味な雰囲気・不安な雰囲気を表す表現を見つけよう (第二課題) ・擬音語・擬態語、色彩語、比喩表現に線を引き、それらの表現の効果や役割を考える。【選択】【類推】 (言葉の力) 擬音語・擬態語、色彩語、比喩表現	【言】擬音語・擬態語、色彩語、比喩表現に着目し、場面全体の雰囲気はどのような言葉によって表されているかを読み取ることができる。 (発表・ワークシート)
	5	「十二月」の物語構成を読み取る。	情景がわかる言葉に着目しながら「十二月」の様子を想像して、図にかき表そう (第一課題) ・情景がわかる言葉に着目しながら「十二月」の様子を想像して、図にかき表す。【選択】【類推】 完成した図を見て気づいたことをまとめる (第二課題) ・「五月」の図と比較しながら、完成した図からわかることを考え、発表する。【選択】【類推】【比較】 (言葉の力) 擬音語・擬態語、色彩語、比喩表現	【読】情景がわかる言葉に着目し、場面の様子を読み取ることができる。 (発表・ワークシート)
	6 (本時)	「十二月」の情景とかにの子どもらの様子をつながりを読み取る。	やまなしの出現の前後で、かにの兄弟の気持ちがどのように変わったのか読み取ろう (第一課題) ・かにの兄弟の会話や情景描写に線を引き、そこからわかることを発表する。【選択】【類推】 穏やかな雰囲気・平和な雰囲気を表す表現を見つけよう (第二課題) ・「五月」と比較しながら擬音語・擬態語、色彩語、比喩表現に線を引き、それらの表現の効果や役割を考える。【選択】【類推】【比較】 (言葉の力) 同じ色彩語でも使われ方によって与える印象が異なる	【言】擬音語・擬態語、色彩語、比喩表現に着目し、場面全体の雰囲気はどのような言葉によって表されているかを読み取ることができる。 (発表・ワークシート)

3	7・8	「やまなし」という題名について考える。	<p>筆者の伝えたいことを考えまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「イーハトーブの夢」を読み、作者である宮沢賢治の生き方や考えを読み取る。 ・どうして「やまなし」という題名なのかに着目して、作者の伝えたいことをまとめ、自分の考えを書く。【関連づけ】 ・五月の「奪われる死」と十二月の「与える死」に気付かせ、宮沢賢治の作品への思いをつかませる。 	<p>【書】2次で学んだことを踏まえながら作者の伝えたいことをまとめることができる。 (ワークシート)</p>
---	-----	---------------------	---	---

7 本時の指導（6／8時）

（1）本時の目標

- ・「五月」と比較しながら、かへの兄弟の気持ちを考えることができる。
- ・場面全体の雰囲気や擬音語・擬態語、色彩語、比喩表現によって表されていることを読み取ることができる。

（2）展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入	1 前時までの学習活動を振り返る。 2 本時の課題を知る。		
	やまなしの出現の前後で、かへの兄弟の気持ちがどのように変わったのか読み取ろう。(第一課題)		
展開	3 「十二月」をペア音読する。 4 かへの兄弟の会話や情景描写に線を引き、そこからわかることを発表する。【選択】【類推】 ・首をすくめて ・「やっぱり、ぼくのあわは大きいね」 ・「ああ、いいにおいだな」 ・「おいしそうだね」	○「やまなし」が現れたことが分かる表現を探しながら音読させる。	<p>【読】読むべき叙述に気付きサイドラインを引きかへの兄弟の気持ちを考えることができる。 (ワークシート)</p>
	穏やかな雰囲気・平和な雰囲気を表す表現を見つけよう。(第二課題)		
	5 擬音語・擬態語、色彩語、比喩表現に線を引き、それらの表現の効果や役割を考える。【選択】【類推】 ・やわらか ・(青) 白い ・トブン ・月が明るい ・水がきれい ・きらきら ・ぼかぼか ・サラサラ ・もかもか ・金剛石の粉をはいているよう 6 「五月」の表現と比較する。【比較】 ・同じ言葉でも、前後の様子や使われ方によって違う印象を感じる。		<p>【言】擬音語・擬態語、色彩語、比喩表現に着目し、場面全体の雰囲気はどのような言葉によって表されているかを読み取ることができる。 (発表・ワークシート)</p>
まとめ	7 学習のまとめをする。 <言葉の力> 同じ色彩語でも使われ方によって与える印象が異なる		